

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700364		
法人名	営利法人 株式会社 アールアイエス		
事業所名	洛和グループホーム太秦 1階		
所在地	京都府京都市右京区太秦袴田町9-1		
自己評価作成日	平成22年9月11日	評価結果市町村受理日	平成22年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670700364&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心と信頼に向けた関係づくりと支援に重きを置き、アットホームとの観点からつつい雑になりがちな利用者様に対する言葉遣いに特に注意し日々仕事の就いている。またご家族様との距離が少しでも近づけるよう、面会時の挨拶はもとより、各ユニット入口に職員の顔と名前を覚えて頂けるよう、職員紹介というかたちで写真を掲示している。

地域住民との交流を少しでも増やせる(密にできる)よう、グループホームでの催しに地域住民への参加を呼びかけており、毎年実施する全体行事には、年々参加者も増えてきている。また職員のみでの参加にはなるが地域の清掃活動に参加している。その甲斐もあり、地域住民を交えた消防訓練への地域住民の参加が増え、近年、高齢者施設の災害で多くの被害者が出ているが、災害時の地域住民の協力体制も少しずつ整ってきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは閉塞感のない自由な暮らしを支援されており、玄関や扉等、全て施錠されており、普通の生活を大切に考えたケアがなされています。玄関先で掃除の合間におしやべりをしたり、利用者同士が居室へ訪問し合って世間話をする等、普通の近所付き合いの光景が日常に見られます。地域との交流も密にあり、地域行事に参加したり、ホームの行事に参加頂くことで、馴染みの関係が構築されると共に、グループホームとしての認識も得られています。理念にもあるように、居心地の良い場所を提供することで、利用者の笑顔を多く引き出したいの思いは職員間での共有であり、一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけています。また、利用者に接する際の言葉がけも大変丁寧で、穏やかな雰囲気を感じることが出来ます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔と居心地の良いケアを求めて、この理念を掲げ、その理念を各ユニット玄関に掲示している	法人の理念とは別に、ホーム独自として職員の思いを込めて理念を作り、日常のケアの場面で実践している。居心地の良い場所を提供することで自然と利用者の笑顔が引き出せるようなケアを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	GHの行事にはチラシを作成し、町内回覧板にて知らせ参加を募っている。また職員だけにはなるが、地域の清掃活動に参加している	ホームでの最大の行事である祭には、近隣の方々に多勢参加頂き、地域行事としての認識が広まっている。地域の清掃活動や地蔵盆に参加したり、民生委員や小学生が訪問してくれたりと交流を持っている。散歩の際には、挨拶だけでなく世間話をして馴染みの関係を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	H22年内に認知症サポーター講座を開催予定		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席された家族様より、運営推進会議の課題や話し合いたいトピックなどの提案を頂いた	会議は2か月に1回、利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、職員をメンバーに開催している。ホームの現状や行事報告がなされ、参加者からは意見や助言を得てサービスの質の向上に努めている。また、ホームでのひやりハットや事故も全て報告している。	ホーム内で実際行ったひやりハットや事故の報告がなされていますが、その後の取り組みまでは報告されていません。今後は、事故を減らすような取り組みの状況や改善策までを報告されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる		行政とは法人が一括して、相談、報告を行い密な連携を図っている為、事業所としては法人担当者を通じての関わりとなっている。運営推進会議の議事録も提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護支援部にて定期的に研修が行なわれており、出席する事によって研鑽している	職員は身体拘束についての理解が深く、研修も受講している。ホームでは見守りの徹底することで身体拘束の必要がなく、玄関や門扉、ユニット入り口も全て施錠しておらず、自由に入出りでき、閉塞感のない生活を提供している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修があれば参加し、日々職員間で注意を払っている。		

洛和グループホーム 太秦 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば参加し、学ぶようしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に口頭と書面にて十分な説明をおこなっており、改定等あればその都度説明をおこなっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン見直し前に、ご家族に希望記入用紙を利用し、希望・意見・苦情を聞く機会を設けている	各ユニット入り口には意見箱を設置している。家族の来訪時に、直接意見や要望をもらい、その都度速やかに対応している。日頃からのコミュニケーションに努め、利用者や家族が意見を言いやすい雰囲気を作っている。また、年に2回アンケートを行い、様々な意見や要望を把握し、満足度を高める為に、改善策を立てて実行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニットカンファにて、ケアプラン以外の業務に関する意見も聞き、反映させている。その他早急性があるものはその場で意見をききその都度反映させている	月1回のホーム会議やカンファレンスで、職員は意見や気付きを出し合っている。会議に出席できない場合は、事前に意見を提出して、全員の意見や思いを出し合って、ケアに反映させている。管理者と各ユニットのリーダー会議も頻繁に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム独自の新人教育マニュアルに沿って指導している 研修にはできるだけ参加できるよう勤務調整している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時から、相談員だけではなくユニットリーダーも同行し、ご本人から話を聞く機会をつくっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時から、相談員だけではなくユニットリーダーも同行し、ご家族からも話を聞く機会をつくっており、また入居後も面談時に近況報告をし話す機会をつくっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、日々の家事について色々たずね、教えていただくことが多い		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、職員が家族へ利用者の様子を伝える手紙を書いている。本人と家族をつなぐ役目をしており、それによって家族が知らなかった事も含めて本人の再発見につながる事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が、ご家族だけでなく親戚等も含め、連絡先がわかる方への連絡を希望され時はその都度支援している	親戚や、古くからの友人がホームに訪ねてくれている。外出の際には以前の住まいを訪ねたりしている。利用者の行きたい場所へ行けるように、家族にも働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士の良い関係ができるよ支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、希望や意向を引き出し、把握するよう努めている	利用者との日常の会話の中で、好きな事や希望を把握している。意向を言葉で表せない方には、生活歴から把握したり、観察した上で自分だったらどうかと考えて思いを汲み取ったり、または家族に聞いたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話を通し、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、状態把握・ケアへの反映を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からは日々の会話、家族からは面会時に話を聞き、それにプラスするかたちで、各職員の意見を加え、今の現状にあった介護計画を作成している	計画を立てる際には本人や家族の希望を聞き、時には医師の意見も反映させた介護計画を作成している。カンファレンスの中で、3ヶ月に1度のモニタリングを行い見直しをしている。介護計画自体は利用者のペースに合わせた臨機応変な対応ができるように立てられています。計画と日誌が連動しており、目標の達成に向けた支援がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記入し共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り支援につなげている		

洛和グループホーム 太秦 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も希望により、長年慣れ親しんだかかりつけ医を利用できるように支援している	ホームの提携医が主治医の方が多いが、以前からのかかりつけ医に通院されている利用者もいる。家族との通院の際には、医師との連携が図れるように、状況報告書を渡して、助言を頂いている。協力医の2週間に1度の往診の他、看護師の来訪や24時間の連絡体制もあり、緊急の対応も万全である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と地域連携課、職員で連絡を取り合い、退院の準備に備えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特養の申し込みも平行しながら、家族と終末期について話し合い、家族の希望を繰り返し確認しながら、臨終に立ち会える医師を探すなどを行なっている	入居時に重度化やターミナルについてのホームとしての対応を話し、家族の意向を聞き、同意書ももらっている。家族を交えて医師や看護師、職員で話し合った上で対応を検討している。ホームとしては終末期の受け入れ体制を整えていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習会を受講している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は1回/2ヶ月 実施 毎年、近隣住民参加の消防訓練も実施	利用者と一緒に地域の消防訓練に参加している。ホームでは年2回、消防署からの協力を得て訓練しており、その際は近隣の方もお誘いして、消火器の使用方法を学んだり、避難経路を確認している。独自でも、2ヶ月に一度避難訓練し、スプリンクラーも近々設置する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの言葉や対応が雑になってくれば、リーダーを中心に職員で注意しあっている	居室に入る際には必ずノックをしたり、トイレ誘導の際の声かけは他者に気付かれないようにする等、一人ひとりのプライバシーを大切に考えて行動している。プライドを損なうことのないよう、とても丁寧な言葉かけでの対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択できるような声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るかぎり各利用者個人のペースを大切に希望にそえるような支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時に本人が好んで着用される洋服を持参していただき、外出時はその時に各利用者が希望するおしゃれ(洋服・帽子)ができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつの献立を一緒に考え、各利用者にあった食事準備を共に行っている(下ごしらえ・味付け・盛り付け等)	毎食、利用者の希望を聞いたり、冷蔵庫の中や広告を見ながら献立を考えている。利用者と一緒に調理の下ごしらえ盛り付け、配膳、片付けを行っている。家庭菜園で採れた食材が食卓に上がることもあり、外食にも出かけている。職員も同じ食卓で同じ物を食べており、検食簿も整備されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた状態把握をし支援している(昔の食事摂取量等の把握)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方には歯科衛生士による口腔ケアを受け、またその指示に従って、適宜、歯磨きやうがいを行っている		

洛和グループホーム 太秦 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンにあわせた、排泄の声掛けを行っている	利用者の様子を観察したり、チェック表に記録し個々の排泄パターンを把握した上で、定期的にトイレ誘導を行っている。日中はできるだけ布パンツやパットで過ごす等、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者にあった便秘予防(水分摂取方法)を職員で検討し水分を多く摂ったり、食事内容で便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、各利用者の希望に添えるよう入浴の支援をしている	毎日入浴準備をし、週に2~3回、利用者の希望や状態に合わせて入浴して頂いている。希望があれば毎日や夜間の入浴も可能である。拒否傾向のある方は時間をずらしたり、職員を交代したり、働きかけを工夫することで、気持ちよく入浴して頂けるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者に合わせ、好きな時間に休息できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬説明書をわかりやすくまとめ、事務所内にて保管し、いつでも誰でもすぐに確認できるようにしている 服薬はマニュアルに沿って実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者に合った、役割を考え支援している 役割の内容がすぐにわかるよう、1枚にまとめすぐに確認できる所に保管している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	会話の中で、行ってみたい所等を聞き出し、面会時にご家族に伝え、可能であれば出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物で外に出かけている。庭でお茶を飲んだり、玄関先での一休み等、外気浴や気分転換に努めている。弁当を持って花見に出かける等遠出もしている。希望に応じて個別での外出支援も行っている。	

洛和グループホーム 太秦 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	初詣のときは各利用者にお賽銭を持って頂き参る また外出時に買い物が出来るところでは職員と一緒に買い物を楽しむ		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	架電希望あればその都度支援している 利用者が書いた年賀状や、手紙はその都度家族宛に送る書類に同封している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒にリビングや玄関に季節の花を飾ったり、折り紙等で季節に応じた作品作りを行っている	お気に入りの場所でくつろぐことができるように、椅子やソファの配置を工夫している。水槽を置いたり、花や写真を飾ったり、季節の飾り付けを施す等、利用者の状態に合わせて各ユニット毎に印象を変えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にイスやベンチ、テーブルを置き、リビング以外にもくつろげる空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、今まで使用してこられた部屋がグループホームでも再現でき、安心して過ごして頂けるよう、入居時またはその都度生活用品の搬入を依頼している	クーラーのみが設置されており、家族と相談して、入居前に自宅で使用していた家具等を持ちこんでもらい、馴染みのある雰囲気の中で居心地よく過ごしてもらえるよう配慮している。家族の写真や好みの装飾品を飾ったり、和室では畳の生活もできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室の入り口などに段差がなく移動の安全性と自立生活ができるよう工夫している		